



二十歳になった皆さんは 土浦をどんなまちにしたい？

11月18日、亀城プラザにおいて、中川市長と今年成人式を迎える本市出身の8人が『住んでみたいと感じる魅力的なまちづくり』をテーマに座談会を行いました。次世代を担う若者の視点で、自由で斬新な意見や提案を、和やかな雰囲気の中にも真剣に市長に説明した様子をご紹介します。

【中川市長】 日本はいま、消費税の問題をはじめ、さまざまな課題をかかえています。そんな中で、土浦市もいまだ変な財政状況で、行財政改革をしっかりとやってかなくては

なりません。もう一つは、まちなかの再生です。お年寄りが増え、人口が減る傾向にある未来を見据え、コンパクトなまちづくりを考え、市役所の移転や、図書館を含めた駅前再開発を予定しています。10年先、20年先を考えていくことが大切で、狭あい化した消防本部や斎場の建替え事業なども行っています。若い人たちが、どういうまちにしたいか、住んでみたい、住んで良かったというまちをつくるため、意見をどんどん出していただいて、取り入れていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

小学校の教員になりたい。

平田達也さん(大学生)



【平田】 市内には高校が多くあるので、モール505を学生自身が自分で考えたお店にする支援をして、オシャレなお店が増えると面白いと思う。近くに茨城大学や筑波大学があるので、大学と連携して研究の成果を発揮できる場所を提供して、先進的な取組を通して土浦市を盛り上げていければいいと思います。

【中川市長】 大学との連携は、すでに筑波大学の先生や生徒さんに、土浦のことを研究してもらって、勉強会の成果を聴く機会も持っています。つくば国際大学とも同じようなことを進めています。

教育者になりたい。

小山田卓実さん(大学生)



特に土浦に在住していない方からの意見や、どのように見えるのかを聞いていきたいですね。

【小山田】 環境資源を活用したいと思っています。「りんりんロード」を霞ヶ浦沿いにもつくり、同時に水質浄化を世界に発信したいと考えます。湖をずっと眺めながら何十キロも走れるというのは、魅力的だと思います。

【中川市長】 霞ヶ浦一周と「りんりんロード」を結び、日本で一番長いサイクリングロードが出来るということで、県でも検討され、土浦市でも、研究しているところです。

【松浦】 PRに力を入れるべきではないかと思えます。昨今のゆるキャラブームに乗って、つちまるを市内だけでなく市外、県外にPRしていくことにより、土浦自体の知名度もあがり、土浦市の魅力を知って

子供たちの見本になる大人になりたい。

松浦誠さん(消防士)



商社マンとして独立したい。

野澤文哉さん(大学生)



もらえると思います。

【中川市長】 土浦は、東京に近く、イベントの集客やロケーションもすばらしい。PRは、ゆるキャラであったりフィルムコミッションでやっていくことが良いのではないかと思います。これからもPRに力を入れていきたいと思っています。





学芸員になりたい。
清水優果さん(大学生)

【清水】 駅周辺に人が集まるようになれば良いと思います。空き店舗のスペースを利用して、小中学生が、自分たちでお店を開き、地元について考え、理解を深めることで、地元の人たちとのつながりもできると思います。

【中川市長】 子供のころから地元に着用を持ってもらえるようなことをするのは良いと思います。これは大事ですね。

【木村】 自分が考えているのは、変革のないchangeです。長所をもっと伸ばす事が大切になってくると思います。レンコンや、学校が多い利点などの長所を絞ってPRすることも、一つの方法だと思います。

【中川市長】 県外などでは、レンコン日本一を知ってる人が少ないだろうと思い、売出すために色々な事をやっています。長所を伸ばしていくことは必要です。



海外の人とビジネスをしたい。
木村公輝さん(大学生)

【野澤】 つくばへの交通機関を充実させ、ベッドタウンとして発達していくのも一つの道ではないかと思えます。コンパクトに、できるだけ一か所に集中させることが私の復活案です。

【山本】 少子高齢化でそもそも人口が減っているのに、転入を増やすために、住んでくれる人が住みやすいと感じていることを、外にアピールするのが良いのではないかと思えます。

【大内】 商店街の飲食店を集めるなどコンパクトなまちづくりができればと思う。土浦はベッドタウン型のまちづく



教育長になりたい。
山本拳也さん(大学生)



茨城の魅力を伝えたい。
大内光広さん(大学生)

りが良いんじゃないかと思う。土浦の魅力を発信するのに、かっこいいプロモーションビデオ(PV)を作って流す。自分からPRしないと分かってもらえないし、外に向けて見せるっていう方法としてPVは面白いと思います。

【中川市長】 少子高齢化時代、まさに人口が減る時代ですから、住んでもらうには、私なりに考えるに、安心・安全のまちづくりではないかと思っています。それは学校や働く場所が近くにあるというのすごく重要なことです。あとは、病院があるということも大事です。当然防犯・防災もですね。やはり、そういったまちがこれから住んで良かったと感じていただけると考えています。

今日は色々なアイデアをいただきました。これからの市政の参考にさせていただきます。皆さんは二十歳です。若い時の特権ですから、大いに外に出ていって活躍し、知識を深め、視野を広げ、色々と吸収して、いつかは土浦に戻ってきていただきたい。また、そう思えるまちづくりをしていきたいと思えます。楽しい話を聴かせていただき、ありがとうございました。

